

堺市障害者自立支援協議会委員 様

堺市障害者自立支援協議会
会長 柏木 一 恵

令和2年度 第2回堺市障害者自立支援協議会にかかるご意見のとりまとめについて

平素は、障害福祉の向上に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、皆様からお寄せ頂いたご意見、ご感想を下記のとおりとりまとめましたので、ご確認ください。

【ご意見有り】

(区協議会について)

- ・4月5月に加え西区では、10月も中止になっていることから、会場の確保が困難な場合でもオンライン対応ができる様、ITの気軽な相談窓口の開拓ができてない事業所に支援が必要。
- ・来年度の各区協議会のテーマである『複合的な課題を抱える家族への支援～その中にいる児童にも焦点を当てて』に取り組むにあたって、子どもに関連する機関(子ども相談所、子育て支援課)は、業務の関係で参加されないことが多いが、協議会へ参加や協力をお願いしたい。
- ・テーマ設定が多様であることは悪いことではないが、なぜこんなにバラツキはあるのか?(各区の地域特性とは余り関係なさそうに見えるが)
自立支援協議会に入っていない事業所等にどうその役割や課題を伝えていくか工夫を考える必要があると思う。

(当事者部会について)

- ・コロナの為、外に出る事ができず、ヘルパーさん達と外出しにくい。部会の参加がなかなか出来なかったのが、残念でした。
- ・障害当事者において、就労について生活支援センター(地活) → 就B → 就A → 就労移行支援 → 障害者雇用となっていて、確かに就労も大事なのですが、この過程を通して障害当事者が「経済的自立ができるのか?」社会人の様に「税金を納める側になれるのか?」その先のステータスである「結婚」「子育て」など実際にできている障害当事者もいますが、パーソナルな部分での「一生、障害に泣かされたり」「一生、就労で終わり」と言うのは悲しく思います!障害当事者も結婚する当事者が、もっとあたりまえのようになる未来を見えています。自分も含めて。
- ・当事者部会の「コロナ禍だからできた事」のまとめから、この視点はほかの当事者の方にとっても有効な内容と感じました。課題に対し何らかの工夫や対応もあると思うので、課題・できた事もまとめているのは、今後活用できるヒントと思います。
- ・障害当事者部会については、特に外出への制限がかかる人も多いと想定され、集合の仕方、オンライン開催への支援など一層の工夫が必要と思われる。
- ・当事者部会から、コロナ禍での生活の困りごとに「精神的な負担が大きくなった」「ストレスを溜め込んでいる人が多くいる」「外部から訪問と受ける事への怖さ」など、心のケアを要する内容が気になった。

(ワーキングについて)

- ・強度行動障害ワーキングの取組みについて、改めて、情報をいただけると幸いです。

- ・相談支援ワーキングが本年度終了とするのは良いが、次年度以降も主任相談支援専門連絡会の進捗、インターバルの状況、他に市内の相談支援に関する動きがあれば、報告に盛り込んで頂けたらと思う。
- ・相談支援ワーキングについては、今後は主任相談支援専門員連絡会で研鑽を積んでいく方向でお願いしたい。

(コロナ禍の状況について)

- ・コロナ感染拡大によって活動の場が様々に制限される中であって各々に工夫されながら開催されたことに心から敬意を表します。
- ・これまでの日常が大きく変わったコロナ禍の話題なしには語ることのできない1年間でした。実際に感染された方やその方々の支援に当たられた方のご苦勞は、大変なものであったと思います。
このコロナ禍はもう暫く継続すると思われませんが、多くの支援者にとって感染という実害を被ることなく、感染拡大防止のための措置として様々な制約の中で支援の継続に取り組むことが出来た貴重な1年間と考えることも出来ます。その工夫を凝らしたおかげで少なからず新たな支援ノウハウを獲得することも出来ました。
近年、障害者自立支援協議会では、防災についての積極的な議論がなされてきましたが、今回を災害時BCPへの経験値を積むことが出来た機会として捉え、蓄積したノウハウを記録し実際のマニュアル整備に活用していくなど、支援者や当事者が一緒になって次に起こる禍に抗する力を蓄えるための活動が協議会を中心に展開していくことを期待します。
- ・コロナ禍というきびしい状況にあっても、各区協議会が工夫努力して、地域課題への対応、ネットワークの継続などに取組み続けてきたことに頭が下がる思いです。こんな時期だからこそ、地域の課題をひろい上げて、ネットワークづくりを進めるという自立支援協議会の役割が求められていると改めて思います。次年度に向けて、各区協議会の「共通テーマ」について検討が始まっていると思います。共通テーマが一方的な押しつけにならず、各区の実情をふまえた柔軟かつ主体的な計画となるように、ていねいなやりとりをよろしくお願いします。オンラインなど、コロナによる社会の大きな変化の中で、障害のある人への合理的配慮がどうあるべきか、当事者部会のとりのくみを通して考えていきたいと感じました。
- ・コロナ禍での就労移行支援事業連絡会の開催状況、就労移行の利用者の状況報告について。
感染防止のため、オンラインで例会を開催しています。毎年行っていた堺市就労移行支援フェスティバルについては、今年度は各事業所で表彰して頂くことになりました。利用者の就職状況については、コロナの影響で職場体験をさせてもらえる会社が少なく、就職が滞っていました。また、求人数が少ない状況にもありました。しかし、最近は職場体験を受け入れて下さる会社も増え、少しずつ就職する方も増えてきている印象です。
- ・情報の取り扱いについて、探したい情報とその情報がある場合に見つけにくい理由と、発信方法や情報のレイアウトについて等、話し合いや試行錯誤の場があっても良いと思われれます。

(新規事業等について)

- ・テレビのニュースでも見た、医療的ケアが必要な方が安心した生活を送るための看護職員配置については堺市の福祉のレベルアップになったと思う。私ごとですが、介護保険になる直前に障害者支援課（現障害福祉サービス課）の担当の方と一年以上の話し合いで高額障害福祉サービスの償還期間が、短縮されたことにも堺市の福祉レベルアップと感じていますが、申請制度なので、多くの人にこの制度を知って頂きたいと思っています。
- ・堺市においてコロナ対策を含め様々な独自の障害者支援策に取り組んでいることの報告をいただいています。今回も重度障害者の就労支援策などの情報提供をいただきました。例えば、これら新たな施策の前年度実績など、実施状況についての情報提供も併せていただければと思います。

- ・新しい制度は、利用してみないと検証できないこともありますので、今後制度利用を考えていきます。重度障害者就業支援事業について、対象者がこれまで自営業をしている方の抽出の機会、サービスの申請や更新時に、窓口職員や調査時の調査員が記録できる仕組みがあれば、あるいはこの制度拡充に伴ない区協議会でも周知することで、対象者のアウトリーチにつながるなら実践したいです。

(協議会全体について)

- ・市協議会についても、状況に合わせ、対面、書面、オンライン等と継続して開催する為に工夫が必要ですが、年度の終わりに各所の報告を確認する事ができて良かったです。次年度は対面できたらとも願いつつ、お会いして意見交換できる日を待っています。
- ・協議ができない協議会として、情報を共有する機会をどのように維持するのか、次年度の課題かと思う。

(その他)

- ・堺市にも訓練等給付にかかる、交通費の補助をつけて頂きたいです。就労移行の利用を検討されている方で気に入った事業所があったが、交通費が捻出出来ないとのことで、断念されたケースがありました。この様なケースもあること、知って頂けると幸いです。

【ご意見無し（感想等）】

(区協議会について)

- ・次年度、協議会の各区共通取組み、障害福祉部の再編について、堺市の障害児支援がより活発に進んでいくことを願い、南区の障害児支援に支援の輪が広がるよう、取り組みたいと思います。

(当事者部会について)

- ・障害者当事者部会（コロナ関連まとめ）とコロナ禍の状況についてのとりまとめは、それぞれの立場での課題や視点が身近なこととして伝わり、とてもわかりやすく、参考になりました。貴重な情報をいただきありがとうございました。

(コロナ禍の状況について)

- ・区協議会及び部会等の報告、コロナ禍の状況を見せて頂き、大変な状況等の内容には、大変心配をつのらせるばかりです。この報告等の中でも、役に立ついまままで気づかなかった事、好取り組みにより以前よりうまくいったという様な、課題、問題の報告にとどまらず、好事例、好取り組み集みたい内容の報告を作成してみたいと思います。コロナ災害等、大変な状況が日々起こってくることを意識し、取り組んでいきたいものです。

(新規事業、組織改正について)

- ・令和3年度の健康福祉局の組織改正後の所轄業務内容の詳細が分かれば情報がほしいです。
- ・重度障害者就業支援事業について、来年度、拡充されますが、利用状況など知りたいなと思いました。

堺市健康福祉局障害福祉部障害施策推進課
堺市堺区南瓦町3-1 堺市役所本館7階
電話： 072-228-7818
FAX： 072-228-8918
担当： 齋藤、木田、山口